

岩手県社会福祉事業団
みたけの杜ぽけっと

活動を体験して

みたけの杜ぽけっとでの活動

- ・はじめのかい
- ・ラジオ体操
- ・創作活動(鬼のお面づくり、まめづくり)
- ・豆まき
- ・宿題

利用者さんの活動の様子

Y さん (小学2年生 男の子)

学校での様子

・おにぎりと豚汁(味噌汁)を食べた。

ぽけっとでの様子

- ・マインクラフトなどのゲームの話題を楽しそうに話していた。
- ・節分の豆まきは鬼役をやりたいがっていた。
- ・ラジオ体操では掛け声をかけて体操していた。
- ・〇〇さん、と職員の方を呼び、「〇〇をします。」などとしたいこと、気持ちを素直に表現していた。



職員の方へのインタビュー

Q1:毎日の活動について

A:日にちごとに、創作活動や体を動かす活動などを行っている。
季節行事を積極的に取り入れている。

Q2:課題、これからの目標

A:心の成長が著しい。(感情を相手に表現するように)
お家の方から、ネガティブな言葉を相手にぶつけないかという懸念点。
気持ちをうまく消化できるように、気持ちの代弁をして補助。

支援内容提案

・ひな人形をつくろう！

折り紙を折り、着物を作成する。
ひな人形の形をした型紙に色を塗ってもらう。
輪飾りを作り、作成したひな人形を飾る。



・気持ちあてゲーム

笑顔、怒る、悲しいなどの感情を表したイラストを作成
→「これは何の顔？」「どんな気持ち？」と尋ねて答えてもらう
→「今の〇〇はこの顔(笑顔)だからうれしいね」と気持ちを表現するツールとして利用

提案理由

・ひな人形を作ろう

→季節行事を楽しんでももらう
→切る、折る、貼る、書く動作を取り入れることで作ることを楽しんでももらう

・気持ちあてゲーム

→感情を言葉にする際のヒントになるように
→この顔が出たら〇〇だ(怒っている)という視覚的情報としての活用

体験を通して

- ・言葉やしぐさから、感情や意図をくみ取ることが重要だと感じた。
 - ・心の成長に合わせた感情表現の仕方を伝えていくことが重要だと感じた。
 - ・利用児さんの長所を見つけ、伸ばしていくことの必要性を感じた。
- 